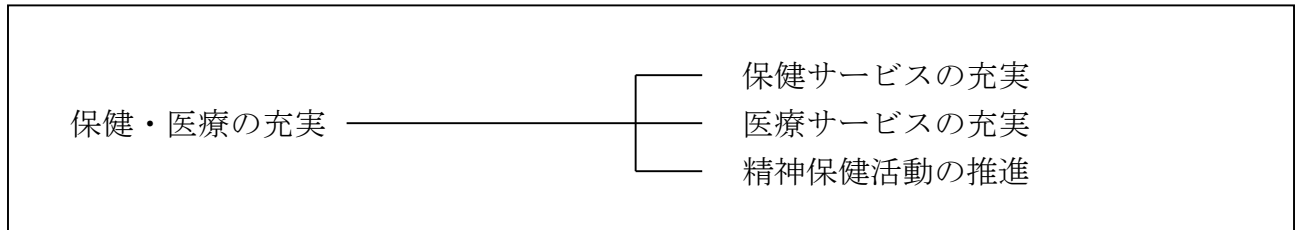


6. 保健・医療の充実

障害者の自立と社会参加を促進する必要があります。本分野では、障害の早期発見と早期支援のための各種対策の充実を図るとともに、精神保健活動を推進します。



(1) 現状と課題

この分野の主要な課題は、次の4つでした。

- ・保健サービスの充実
- ・医療サービスの充実
- ・精神保健活動の推進
- ・新型インフルエンザの対応

1) 現状

①保健サービスの充実

- 本市では、子育て支援施策とし、妊娠、出産、子育ての切れ目のない相談・支援のネットワークの仕組みとして「名張版ネウボラ」に取り組み、支援の切れ目をつなぎ、保健・医療・福祉との連携が図られる体制を整えています。
- 妊娠期・乳幼児期の発達段階に応じた各種健診や健康相談を実施し、発達に心配のある子どもや保護者に対して、育児支援の実施や医療機関等への紹介、子ども発達支援センターや児童発達支援センターのほか、医療、福祉、保育、教育などの関係機関と連携のもと、支援しています。
- 生活習慣病予防重点プロジェクト「ばりばり現役プロジェクト」に基づき、特定健診やがん検診、歯科健診を実施しています。

②医療サービスの充実

- 名張市立病院では小児発達支援外来を設置するとともに、2014（平成26）年に、24時間365日の小児の二次救急医療を行う「小児救急医療センター」を開設し、地域医療支援病院として病院機能の充実を図っています。また、産婦人科の設置に向けた検討を進めています。
- 一次救急医療は市内開業医、時間外は名張市応急診療所が受入れを実施、二次救急医療は、平日昼間は名張市立病院、時間外は伊賀地域の3病院が輪番制により実施しています。また、三次救急やドクターヘリなど、津市や奈良県等の周辺の医療機関との連携にも努めています。

- 2011（平成23）年に、「名張市在宅医療支援センター」を設置し、在宅医療の切れ目のない支援のためのネットワークづくり、人材育成、啓発などの事業を実施しています。
- 「三重県救急医療情報センター」では24時間体制で受診可能な医療機関を案内しています。また、「みえ子ども医療ダイヤル」は小児の医療相談を19時半から翌朝8時まで実施しています。
- 障害者の歯科治療については、伊賀歯科医師会との連携により身近な医療機関での診療や訪問歯科診療を進めています。
- 県では難病（指定の特定疾患）について医療費助成を行うとともに、在宅支援ネットワークづくりに努めています。
- 心身障害者医療費助成を実施しています。

③精神保健活動の推進

- 県の夜間や休日等の精神科救急医療は、精神科病院の当番制で運用しています。
- 市内の精神科の診療所は、3か所から2か所に減少した中、精神科の通院患者数は増加傾向にあり、市外や県外の医療機関の受診が増えています。
- 本市では月1回、保健師による身体とこころの健康相談を実施し、伊賀保健所でも月1回、精神科医師によるこころの健康相談や「伊賀地域精神保健福祉連絡協議会」を開催しています。
- 精神障害者やその家族等からの相談において、医療機関を受診していない人には医療機関の情報提供や保健所と連携して家庭訪問等を行っています。また、本人や家族に病識がなく、警察や保健所との連携が必要となる場合もあります。

④新型インフルエンザへの対応

- 国内での感染発生により、深刻な状況であったことから前計画では課題の一つとしていましたが、現在は2014（平成26）年に策定した「名張市新型インフルエンザ等対策行動計画」に基づき情報収集や対応に当たることとしています。

2) 基礎調査結果

①健康サービスの充実

・健康づくりの推進（健康状態）

- 「健康かどうか」を障害者本人に聞いたところ、「健康でない（健康上気になる点がある、持病がある、病気がちである、現在治療中である、と回答）」と回答した人は63.4%でした。
- 調査結果によると、身体障害者では40歳を超えたあたりから健康に不安を抱える人が増え始め、60歳以上になると身体障害者全体（重複含む。）のうち59.1%が「健康でない」と回答しています。
- 「その他」についての自由記載では、障害者本人から認知症やパーキンソン病、特別養護老人ホーム入所中等、加齢に伴う内容が多くなっています。

○知的障害者・精神障害者は身体障害者とは異なる傾向があり、20～59歳で「健康でない」と回答した人が多くなっており、障害による影響が考えられます。

・健康づくりの推進（歯の健康状態）

○「歯の健康」について障害者本人に聞いたところ、「歯が健康でない（虫歯や歯槽膿漏、歯痛、入れ歯、口臭と回答）」と回答した人は45.4%でした。

○身体障害者の60歳以上の人、知的障害者・精神障害者の20～59歳で「健康でない」と回答する人が多く、「その他」として、入れ歯に関する自由記載が多くありました。

②医療サービスの充実

・受診しやすい医療体制の充実、救急医療体制の整備（医療体制に対する市民の意識）

○2018（平成30）年度市民意識調査で、地域医療機関で現在の医療体制について尋ねたところ、「十分満足している」と回答した人が4.2%、「一応満足している」が44.6%で「満足」の合計は48.8%、「やや不満である」が36.4%、「非常に不満である」が14.8%で「不満」の合計は51.2%となっています。

・受診しやすい医療体制の充実、救急医療体制の整備（心配事の内容）

○「現在の生活で困っていること（複数回答）」について障害者本人に聞いたところ、「医療問題」と回答した人が障害者全体で13.7%となっています。

○困り事の中では上位ではありませんが、障害者本人の自由記載では、「家族と暮らしている人でも不安を感じないよう相談できる医療機関の設置」など、障害に関わらず医療の充実を望む意見がありました。

・受診しやすい医療体制の充実、救急医療体制の整備（医療体制の改善点）

○「障害者福祉推進のために、市内の医療体制で改善や充実を図るべき点（複数回答）」について介護者、一般市民に聞いたところ、介護者では「リハビリ施設や専門スタッフの充実」と回答した人が32.6%、「夜間や休日救急医療体制の充実」と回答した人が30.8%、「障害者の通院に対する配慮」が29.3%、「障害者に親切な配慮ある診察」が24.9%、「往診医療体制の充実」が24.6%でした。

○一般市民では「リハビリ施設や専門スタッフの充実」が57.8%、「夜間や休日救急医療体制の充実」が41.9%、「障害者の通院に対する配慮」が41.0%、「往診医療体制の充実」が37.3%、「障害者に配慮した病院設備や表示」が31.2%でした。

○調査結果では介護者、一般市民とも「リハビリ施設や専門スタッフ充実」「救急医療体制」「通院への配慮」「往診」等の項目を重要と考えている回答が多くありました。

○自由記載でも、介護者、一般市民とも同様の傾向が見られ、どの年代からも意見がありました。代表的な意見では、「障害について専門知識を持った医師やスタッフの充実が必要。県外や遠方の医療機関に行かなくても診てもらえる基幹病院があれば

良い」等の意見や、在宅医療、救急医療、透析、発達障害、精神障害者のフォロー、回復期病棟、リハビリテーションの充実を望む意見が多くありました。

・受診しやすい医療体制の充実、救急医療体制の整備（困ったことがあった時の相談先）

- 「困ったことがあったとき誰に相談するか（複数回答）」を障害者本人に聞いたところ、障害者全体では「家族や親族」が75.9%、次いで「病院（医師、看護師、ワーカー等）」が28.3%となっています。
- どの障害別・年齢別でも「家族や親族」が相談先の中で最も多くなっています。次の相談先として、身体障害者・精神障害者は「病院」、知的障害者は「施設や作業所の職員」という回答が多くありました。

3) 課題

この分野では、次の3つを主要な課題とします。

- ・保健サービスの充実
- ・医療サービスの充実
- ・精神保健活動の推進

(2) 施策の目標

1) 保健サービスの充実

- 保健・医療の仕組みをつなぐ名張版ネウボラを推進し、妊娠・出産・子育て等、切れ目のない相談・支援のさらなる強化を図ります。
- 子ども発達支援センターを中心に、発達支援に精通した専門職の育成や保健・医療・保育・福祉・教育等関係者や地域の理解を促す人材育成に努めます。
- 自分で訴えたり受診したりするのが難しい障害者も多く、「まちじゅう元気推進都市宣言」に基づき、誰もが元気に活躍できるよう、歯と口腔の健康も含めた疾病予防・健康づくりの充実を図ります。

2) 医療サービスの充実

- 子ども発達支援センターを中心に、市内小児科医や市立病院の小児発達外来と連携し、早期発見から保育所（園）・認定こども園及び幼稚園、小中学校等での充実した支援につなげます。
- 自立支援医療（更生医療・育成医療・精神通院医療）など医療費の公費負担や障害者医療費助成が適切に受けられるよう、関係機関等への周知啓発を行うとともに、窓口等においても適切な支援に努めます。
- 引き続き、小児二次救急や伊賀地域の3病院での輪番制による二次救急医療体制の維持に努めるとともに、周辺の市町や医療機関、県との連携を図りながら、病院の機能分担と連携の強化を図ります。

3) 精神保健活動の推進

- 精神科医療スタッフが、夜間・休日を含めた365日24時間対応で相談に対する助言や、必要に応じて精神科救急医療の当番病院を紹介する「三重県精神科救急情報センター」について、広く市民に周知します。
- 伊賀保健所で実施されている精神科医による相談や、市で実施する健康相談や障害福祉の相談、三重県こころの健康センターが実施する精神保健福祉研修会の情報提供に努めます。
- 保健・医療・福祉の支援の充実に努め、地域の見守りのネットワークの充実や、「地域ささえあい」の仕組み等により、支援が必要な人が安心して暮らせる地域共生社会の実現を図ります。